

「孫の後継ぎを楽しみに」

土曜日のひろば



《253》

坂下 トキ子さん (76歳・茂市)

★：十八歳のとき岩泉町の年々というところが茂市に嫁いできました。★：長男が生まれだ年に終戦になります。よも、よろこぶ暇もなぐ重なるようにケガズがきて不作が続ぎ。★：子どもに食べさせるようがなくて、なんぼ苦勞すたんだが。★ほんでも元気に育つてくれた六人を見るたび、子どもには感謝だ。★茨城県さ嫁に行つた娘の子が郵便局に勤めています。★普代に配達の仕事さえあれば、来て住みたい。★茂市で後継ぎをしてほしい。★それが、なんぼ楽しみだ。★家のガイグロウの草取りに毎日励んで、孫ど暮らせる日を心待ちにしています。

「普代の植物散歩」⑨

ウンラン (ごまのはぐさ科)

大森 竹之助さん (七二)

久慈市在住

ごまのはぐさ科の多年草。海辺に多く生え、花がランに似るためこの名がある。八月から九月ころ、普代北浜に行くと、株数は多くないけれど、美しいウンランに出合う。草丈は二十〜三十センチで、葉や茎は白っぽい緑、葉は肉厚で、茎をとりまくようにしている。じりじりの熱砂に根を張



ウンラン

り、厳冬の寒さをしのぎ、過酷な環境を住処とするウンランのたくましさは、どこから生まれてくるのだろうか。

とこで海辺の開発や種のイベントに

よって、砂浜がかかわるとさすがのウンランも、姿を消してしまう。野田村の十府ヶ浦はその好例で、平成十四、五年の二か年にわたり調べたところでは、たしかこのあたり生えていたはずの記憶とは違い、ウンランは全く確認することができなかつた。願わくばウンランを別のところに移



普代北浜にて(写真：大森さん提供)

植するとかして、浜辺の植物園・ウンランコーナーを設けていたらなあ。と淋しく思う。他村のことながらついに気になってしまふのが、普代村でもあり得ることである。何かを、施すと、何かを失うことに配慮があつてよいのではなからうか。

川柳 文芸の世界

川柳 (575)

川柳愛好会 九月例会作品

大きかった母の存在今気付く 嗟哦 待女
人生の指針恩師のプレゼント 悔しさをバネに一念発起する
三上 翠香
こんなこと聞きたくないと耳に蓋 あいまいが一度ならずも二度三度 何よりも母の笑顔がプレゼント
深渡 汀女
朝顔の蔓がゆれてる青い空 一年に座る達磨の太い眉 こんなこと笑って許す丸い人
太長根英子
私にはあなたがいると言え今 あいまいな態度で誤解ばかりされ 青い空雲がウロコを描いている
加差野静浪
精一杯かけたクラブへ青い空 あいまいなグラスに透ける黒い服 一念を通し安らぐ月見草